たんぽぽ会会報

令和５年10月

発行者
たんぽぽ会
（東京学芸大学
幼稚園科同窓会）

〒184-8501
小金井市貫井北町４－１－１
東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎
042(329)7813

『見て、聞いて、学び合う姿から』

たんぽぽ会会長　田村秀子

新型コロナウイルス感染症が五類に移行したことで、ここ数年、できなかったことができるようになりました。異年齢の交流や地域との交流も再開し、様々な体験活動が新しい形で工夫されているのではないでしょうか。

私の園でも、六月に四年ぶりに近くの保育園の年長児が遊びに来ました。事前に年長の担任同士で打ち合わせを行い、交流の内容を決め、使う場や遊具を準備して、保育園児の到着を待ちました。最初は互いに緊張していましたが、皆で互いの先生の自己紹介を聞いたり一緒に仲間作りゲームをしたりするとすぐに打ち解け、一緒に園庭に出る頃には手をつないだり、「こっちに来て」と声をかけたりしていました。鉄棒、サッカー、砂遊びなど、自分の興味のあることで一緒に体を動かしたり、虫やカメに触れて面白がったりし、七十名以上の年長児が園庭で遊んで賑やかでした。「これは何？どうやるの？」「入れて」と積極的に関わってくる保育園児から幼稚園児も新しい刺激を受けたようです。帰る時には「また遊ぼうね」「今度は保育園に来てね」と別れを惜しんでいました。職員の異動もあり、四年前の交流を知っているのは私だけという状況での再開でしたが、保育者同士も互いに親しみをもち、緊張がとれ、交流の面白さや子供たちにとっての意義に気付いたようです。幼児だけでなく乳児の発達や日々の育ちについても学べるよう、保育園の先生方と学び合う機会を大切にしていきたいと思いました。

また、以前に保護者会主催で行っていた夏祭りを「わくわくえんにち」という名前で復活させました。保護者のイベント係が園とともに企画し、準備し、保護者ボランティアと共に運営する行事です。働く保護者が増えた中、負担を減らし、それでも子供たちが楽しめるように工夫しました。忙しい保護者もコミュニケーションをとれるよう園がサポートし、保護者のアイデアを生かし、保護者が力を発揮する姿を担任にも知らせていきました。様々な配慮が必要な子供たちがいることを保護者に伝えると、どの子にも分かりやすい説明を考えたり、やってみるかどうか子供の思いを尊重したり、子供に応じてワニの動かし方を変えたりしてくださり、子供たちも安心して遊べたようでした。同じ場で目的を共有し、互いの様子を見合うことで気付くことがたくさんあったようです。子供たちも大人たちの姿から何かを感じとっていたことでしょう。様々な人と同じ場で関わり、互いの言動を見たり聞いたりすることで、子供も大人も学び合えることを実感しました。

今、「持続可能な社会の創り手を育む教育」が求められています。誰一人取り残さず、一人一人のウェルビーイングを保障していけるように、常に乳幼児の側に立ち、嬉しい体験、心地よい体験、興味・関心を広げる体験、満足するまで遊べる体験、様々な人と関わり学び合う体験などができるようにしたいものです。そして見守り、支える大人の輪も広げていきたいものです。

たんぽぽ会の研修を通して、私たちも様々な人と出会い、語り合い、心を動かし、学び合っていきませんか？

【大学より】

幼児教育コースと幼児教育サブプログラムの近況

東京学芸大学　教授　吉田伊津美

大学も今年度からは対面での授業になり、キャンパスにも活気が戻ってきました。七月に行われたオープンキャンパスも事前予約制ではありましたが来場型で行われ満席状態でした。

学部組織は今年度(令和五年度)より、これまでの初等教育教員養成課程(A類)幼児教育選修から、初等教育専攻(A類)幼児教育コースに改称されました。定員20名に変更はなく四月には22名が入学しています。関連して今年度から変わったことは、授業時間が90分から100分に、授業回数が14回になりました。また、春(秋)学期の前半または後半7回の授業が今年度入学生より新たに開設されています。例えば「幼児と健康」など領域に関する専門的事項の一単位科目などです。

東京学芸大学は今年(令和五年)創基150周年を迎えています。資料によると、1949(S24)年に創設された当時は二年課程の幼稚園教育学科でした。1951(S26)年度にはたんぽぽ会1回生の9名が卒業されています。以降、1966(S41)年に学芸学部から教育学部に改称され初等教育教員養成課程(A類)に、1967(S42)年には幼稚園教員養成課程(E類)が設置され、2000(H12)年に初等教育教員養成課程(A類)に統合されるまで通称E類幼稚園科として独立した課程でした。ちなみに現在のE類は、2015(H27)年に再編された教養系の教育支援課程をいいます。今春(令和四年度)卒業した学生は70回生になります。私の知る限りでもお母様が幼稚園科だったという卒業生が何人かいますが(現四年生にも1人います)、今後は親子三世代にわたってという学生にも出会えるでしょうか。大学の前史を含めた150周年史が刊行されていますのでご興味のある方はご覧ください[注1]。また、幼児教育コースのWebページも四月にリニューアルし、一年生を中心に毎月コースの近況を報告していますので、お時間のある時に是非ご覧ください[注2]。

一方、教職大学院の幼児教育サブプログラムには今年度3名が入学しておりますが、このうち2名は本学卒業生であるたんぽぽ会のお仲間です。教職大学院(教育実践専門職高度化専攻)は、令和元年度に210名という我が国最大規模の総合型教職大学院に転換され、幼児教育もこれまでの修士課程から教職大学院に位置づけられましたが、昨年度までの幼児教育サブプログラムへの入学者は芳しいとはいえない状況でした。しかし、卒業生を含む今年度入学の3名はいずれも現職経験のある方々で、授業は活気にあふれとても充実していると感じています。先日も附属幼稚園小金井園舎で「よるまでようちえん」がありましたが、学部生だけでなく院生も実習として丸一日参加しました。

幼稚園の研修(派遣)制度は小中高校とは異なり、意欲はあっても大学院には通いにくいのが現状であると認識していますが、夜間開講や、休日、夏季休業中等の授業もあり、働きながらでも長期的な計画を立てて学ぶことができるようになっています。本学教職大学院は高度専門職業人としての教員養成に特化した専門職大学院ですので、他校種の方との関わりの中で視野を広げる機会にもなります。また来年度(今年度入試)からは外国人留学生を受け入れることとなっていますので、多様な人との交流を通して学びを深めたり、学び直したりできると思います。ご興味のある方はこちらをご参照ください[注3]。

注1　『東京学芸大学150年の歩み　1873-2023〔電子版〕』
https://d-archive.u-gakugei.ac.jp/exhibition/tgu150th_text

注2　幼児教育コース(選修)のWebサイト
https://yokyo.u-gakugei.ac.jp/

注3　教職大学院パンフレット
https://www.u-gakugei.ac.jp/webimg/23_05_genshoku_pamphlet.pdf

教職大学院教科領域指導プログラム
(幼児教育サブプログラム)：下から２番目

令和５年度
たんぽぽ会
総会
研修会

－画家・絵本作家
鳥の巣研究家
鈴木まもる先生を
お招きして－

６月24日（土）

令和５年６月24日(土)、令和５年度たんぽぽ会総会が開催されました。幅広い会員の皆様が参加しやすいように、現地での参集とオンラインの同時開催で行いました。会場となった附属幼稚園竹早園舎には、ご来賓の本学同窓会本部副理事長　茅原直樹様をはじめとする33名、オンラインでは８名が出席し、コロナ禍以前のにぎやかさが戻ってきたことを実感しました。

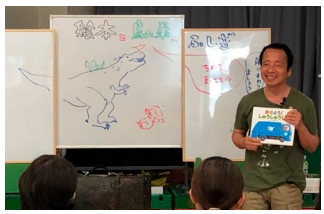
総会では、東京学芸大学辟雍会会長谷川正様よりご挨拶をいただきました。今年度は、東京学芸大学創立150周年、辟雍会設立20周年という節目の年にちなんで様々な企画が計画されていることや、子どもたちの探究活動の深まりにつながる幼児教育の重要性などについて話していただきました。

また、令和４年度の事業及び会計報告、令和５年度の役員、事業計画案・会計予算案が全て承認されましたことをご報告いたします。会員名簿の更新について、今後の取組や更新方法などの説明もいたしました。

同日に開催された第一回研修会では、画家・絵本作家・鳥の巣研究家など様々な分野でご活躍されている鈴木まもる先生をお招きし、『絵本と鳥の巣の不思議　―鳥の巣が教えてくれること―』と題して講演会を実施しました。鈴木先生は、『せんろはつづく』他、多くの絵本を描かれた先生です。講演会の前半は、絵本ができ上がる過程や小学生時代のこと、お子さんが小さかったときの育児絵日記など、様々なエピソードを参加者を巻き込みながら語ってくださいました。軽快なお話に合わせて、ホワイトボードにさらさらと流れるように心温まるイラストを描いてくださったのですが、まるでお話の世界の中にいるような気持ちに包まれ、すばらしいひとときとなりました。絵本作家は絵本を通して様々な生き方や世界があることを伝えている、だから子どもたちには様々な絵本を読んでほしいと思っていること、大人が子どものことを決めつけた見方をせず、その子なりの生き方を温かく見守っていくことが大切であることなど、絵本に込められた先生の熱い思いを受け取りました。

後半は、鳥の巣についてのお話でした。会場には鈴木先生が集めた数々の鳥の巣が並び、鳥の種類による巣の作り方や形状の違いについて、丁寧に解説をしていただきました。海外の鳥の巣や巣の中のヒナたちの様子の動画など、ワクワクしながら見せていただきました。私たち大人が様々なことに興味関心をもって楽しむこと、そしてそれを子どもたちに伝えていくことが大切だと教えていただきました。

講演の様子



研修会後には、昨年度本学を卒業した新会員による自己紹介も行いました。

たんぽぽ会の研修会は、本年度も年に二回実施します。秋の研修会は幼保小連携をテーマに、本学26回生で青山学院大学特任教授・元公立幼稚園副園長　久保寺節子様や、茅ヶ崎市立香川小学校　総括教諭　山田　剛輔様に事例提案をしていただき、参加者の皆様とフリートークで意見交流をしたいと考えております。様々な先生方との交流を図る機会ですので、ぜひご参加ください。

〈特集〉

学芸大幼稚園科卒業生の活躍

「子育て真っ最中の親御さんの「こころの支援」の大切さ」

三十四回生

浜松学院大学付属幼稚園
親支援カウンセラー
ほっとサロン・はぐマイハート主宰
中島　祐子

昨年は「各期のたより」への投稿の機会をいただき、ありがとうございました。今回は私ごとで大変恐縮ですが、自分自身の子育ての体験からお伝えしていきたいと思います。

３人の子はそれぞれにユニークです。トップバッターの長男はピカ一。一緒に楽しめたことも多々あったのですが、入園後、集団生活からはみ出しがちな長男への悩みが一気に増えました。群れて遊ぶ他児の傍ら、黙々とタイルを掘り続ける息子にモヤモヤ、参観会での独り行動にヤキモキ、遊びに夢中で毎日持ち帰るおもらし袋にイライラ、遊ぶ約束をしなくてハラハラ、発表会の劇で観客になっている姿にドキドキ！今振り返ると、息子は息子の世界をマイペースに謳歌していたのに、私が勝手に悩みを作り出していたのです。でもその時は、自分の子育てがダメなのではないか？息子はどこかおかしいのではないか？と真剣に悩んでいました。

社会性を育てなきゃ！と独断でママ友に声をかけた結果、息子は隠れてしまう始末、益々カリカリ！そんな状況についてどうしていいかわからず、苦しい気持ちが溢れ、自分を責めたり息子に八つ当たりしてしまったり…その頃は、それが精一杯の自分でした。こんな風に当時の未熟な子育てを赤裸々に思い起こすと、今でも胸が痛みます。

同じ状況でも、新米ママでも、子どもなりの成長を信頼でき、自然に見守れる方もおられます。なぜ、私はこんなに葛藤を抱えざるを得なかったのでしょう？

私の母の子育ては、祖母から受け継いだモノサシを与えることでした。「子どもは大人の言うことを聞くべし」という昭和の価値観も根深いです。子ども時代の私は、「みんなと同じようにちゃんとしていないと！人様に迷惑をかけてはいけない！世間に恥ずかしくないように！ダダコネはわがまま！自分だけでがんばらないと！」等々、視野の狭さゆえに思い込んでしまったようです。奥底に溜まっていた苦しい気持ちが、自由に自分を貫く長男の子育てと共に溢れ出て、大人の自分がのみ込まれてしまったのです。結果、親からの価値観との線引きが難しく、自分の軸が見えないまま、表面的な次元で右往左往しがちでした。

けれども幸い、私の中の子ども心に寄り添い、受けとめてくれる温かな先輩ママや先生、抱っこ法の学びとの出逢いがありました。息子への悩みは、私自身の苦しさや不安の投影であることに気付かされ、己の弱さを受容するほどに、息子のこともあるがままに受け入れられるようになっていきました。とりわけ心の学びをされていた年少の担任は、私の苦しさを理解しようと寄り添い、交換ノートで支えてくださいました。息子の個性を思いっきり楽しんでくださり、心底救われました！40代で臨床心理士資格を取得した私に、ぜひ一緒に親支援をしましょう！と声をかけてくださいました。ご縁を繋いでくれた息子、がんじがらめになっていた心のクサビを全力で取っ払ってくれた３人の我が子、反面教師という愛を以て最も大切なことを伝えてくれた両親に、一生の感謝です。

こんな風な私の姿を通して、母親が苦しい子育てとなる背景に切実な事情が必ずあることをイメージしていただけたらと思いました。子育て真っ最中のお母さんにも、心から安心して「子どものような感情」を吐き出し、受けとめてもらえる居場所があると、自分のペースで心がほぐれ、本来の笑顔がよみがえります。お母さんの安心感が満たされていくにつれ、家庭の空気が柔らかく緩み、大好きなお母さんのことが心配でたまらなかった子どもたちも落ち着きを取り戻します。

お母さんが安心して涙を流せる場所、唯一無二の存在としての自分を大切にできる時間って真に大切だなあと感じてなりません。

園では毎月、ほっと通信(HPで閲覧可能)を通し、ありのままの私自身を発信しています。カウンセリングの第一歩のハードルがどうしても高いからです。メルマガ配信も始めました。(リザスト、こもれびゆう)響いてくださったらご覧ください。

「短期大学で保育者養成に携わる中で考えること」

五十一回生
湘北短期大学保育学科講師
田中　あかり

幼稚園科を卒業してちょうど二十年を迎えます。現在、神奈川県の厚木市にある短期大学の保育学科に勤務しています。学芸大学から遠く離れていても、私の研究室には学芸大学の先生方や附属幼稚園の先生方が書かれた著書が並んでいます。今改めて学芸大学の先生方から学んだことを、少しずつ咀嚼しながら過ごしているように思います。目の前のことで精一杯の日々ですが、仕事の中で考えていることをお伝えします。

○湘北短期大学保育学科

勤務校である湘北短期大学は、神奈川県にある短期大学の中では最も学生数の多い総合短期大学です。ソニー株式会社によって創立されたソニー学園を母体とする為、企業らしさも感じる大学です。大学は現在、ＤＸ教育とＳＤＧｓに関する取り組みに力を入れており、業務のデジタル化やペーパーレス化が急激に進んでいます。また来年度からは保育学科の情報系の授業も新しくなり、保育ドキュメンテーションや動画編集などの保育者のスキルを高める内容が、より充実する予定です。一方で保育学科の専任教員全員が、乳幼児期の具体的な体験の大切さや人と人の直接的な関わり合いの大切さは守らなければならないと共通の認識を持っています。時代の流れに飲み込まれることなく、学芸大学で学んだことに立ち戻りながら、これからの保育のあるべき姿を考えていきたいと思っています。

○授業における取り組み

短期大学の学生は二年間の間に授業や実習が休みなく続きますが、本学の学生は比較的真面目で、よく教材研究に励み、実習を一生懸命こなします。一方で課題としては、現在の学生の特徴かもしれませんが、深く物事について考える、自分の意見をもち表現することなどが苦手であるように思います。そこで授業では、いかに学生の心を揺さぶるか、当事者意識を持って主体的に考えられるようにするかを大切にしています。例えば、担当科目「子ども家庭支援の心理学」では今年度はドキュメンタリー映画である『うまれる』『ずっと、いっしょ』（豪田トモ監督）を授業で取り上げ、家族とは何か、子どもの心の健康を保つ為にできることは何か議論する授業を行いました。学生の評価では「いろいろな感情があふれた」「理解が深まった」「人と意見を交換できて良かった」という言葉がありました。保育者とは実際に生きる人たちの問題に関わる仕事なのだと思えることが重要だと考えます。一方で、重たい現実ばかりでは保育者になる自信を失わせます。

「保育者論」の授業では、幼年童話の読み聞かせの時間や折り紙を皆で折る時間を入れ込みながら展開します。教科書にあるきれいな言葉を並べて保育者の役割を伝えるよりも、一つのお話を通して感じる子どもとの世界、実際に手を動かしながら分かる面白さが講義系の授業であっても学生の理解を助けることを実感しています。

○研究について

大学院生の頃から変わらず、乳幼児期の情動を中心にそこに関わる大人の行動の研究をしています。中でも、現在注目しているのは、四歳児の第二の自我あるいは社会的自己を誕生させていく時期の葛藤についてです（発達心理学会第三十四回大会にて発表）。また、二、三歳児頃の第一反抗期の時期に見られる自己と他者の間での葛藤に関する研究も他大学の研究者と一緒にしています（日本家政学会第七十五回大会にて発表）。また、今年度は実習指導担当者の効果的な研修会の在り方についての共同研究にも参加しています。

現在、神奈川県の県西地域でも、少子化の影響で幼稚園、中でも公立園の閉園が顕著です。子育て環境が変わり、集団保育に求められるものも変わる中、学芸大学で学んだ基本に立ち戻りながら乳幼児期の子どもの健やかな育ちの為にできる限りのことをしていきたいと思っています

前列中央が筆者

卒業生より

「助けて」と言えるようになりたい

四十五回生　篠田　美絵

48歳になり、娘たちも手が離れて「これからの自分の人生」を考えるようになりました。下の娘の中学入学をきっかけに、ある園で正規職員として働き始めましたが、大学で学んだ「子どもに寄り添う保育」と異なる保育にとまどい、体調を崩してしまいました。そうなってみて初めて『助けて』と言えない自分に気が付きました。今まで我が子やパートで働いていた療育センターの子どもたちに「困ったら、助けてって言うんだよ」と繰り返し言ってきたのに、辛いときになんとか一人で乗り越えてしまう自分がいたのです。

　このまま人に頼ることができない人でいるのは、さみしいな。そう思ってもがいています。ずっと、できる人になりたかったけれど、できなくてもいいんですよね。そのままの私を好きになりたいなと思っています。

　同期のみんなも、いろいろな形で子どもと関わる仕事をしています。みんなが頑張っていると思うと頑張れる。同期の絆、健在！

遊ぶ楽しさ

六十五回生　髙橋　理紗

在学中は、様々な授業で「遊ぶ楽しさ」「遊びを通した学び」について教えていただきました。みんなで一輪車に乗ったり、運動遊びの指導案を考え、鬼ごっこをしたり、実習での制作活動を考えたり、とても楽しかったことを今でも覚えています。教員になって七年目になりますが、担任が楽しむ姿を見せたり、楽しさに共感したりすることが子どもたちにとって大切な環境になっていることを実感する毎日です。

　私たちの代は大学を修了後、全員が教職の道へ進みました。幼稚園や保育園、病児保育など場は様々でしたが、特に一年目の頃は、自分が保育で悩んだ時に、同じように子どもと向き合っている同期の存在にとても助けられました。今はそれぞれ違う道を見出している仲間もいますが、何気ないおしゃべりをしたり、一緒に旅行に行ったり引き続き「遊ぶ楽しさ」を共有しています。

たんぽぽ会のホームページに情報を載せています！

研修会の情報やたんぽぽ会からのお知らせを随時更新しています。

　ぜひご覧ください

＜たんぽぽ会のメーリングリストにご登録ください！＞

　研修案内等、たんぽぽ会からの情報が届きます。下記のメールアドレスまでお名前と何回生か（または卒業した年）を添えてメールをお送りください。

tampopokai.tgu@gmail.com

令和５年度　たんぽぽ会役員

会　長	田村秀子（29回生）
副会長	小澤明子（30回生）
	宮本実利（34回生）
庶　務	
研修	青山伸子（36回生）
	女屋旬子（36回生）
	大川美紀子（44回生）
	澤田　亮（51回生）
会報	川﨑暁子（46回生）
	山本　遼（60回生）
事務局	八木亜弥子（48回生）
会　計	船水智恵子（58回生）
	増子梨央（66回生）
会計監査	東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎園長・副園長
監　事	井口美惠子（21回生）
	永井由利子（21回生）

＜会費納入のお願い!!＞

たんぽぽ会の運営維持のため、会費のお振り込みをお願いします。12月末日までにお振り込みください。

会　費　2,000円

振込先　三菱ＵＦＪ銀行　小金井支店
普通口座：０４２７７６８
口座名：東京学芸大学幼稚園科同窓会
会長　田村　秀子

※ 振込人には何回生かの数字とお名前を入れてください。

《インフォメーション》

☆令和５年度秋の研修会
令和５年11月25日㈯　14:45～

☆令和６年度たんぽぽ会総会・懇親会
令和６年６月22日㈯　予定
東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎にて

☆令和５年度卒業論文発表会
令和６年１月20日㈯　9：00～